

# 学校だより



令和元年 11月 29日

横浜市立二谷小学校  
校長 石川 秀子



## 「イチョウの木」

副校長 秀徳 能尚

11月15日、なかよし班（クラス、学年単位ではなく、1年生から6年生までの各学年が集まって構成）ごとに岸根公園へ遠足に行きました。この時期、岸根公園ではイチョウの葉が美しく色付いています。イチョウの木は、公園だけでなく、街中や神社仏閣でも多く見かけることができ、秋の到来とその美しさを感じさせてくれます。

私が小さい頃に通っていた保育園はお寺の境内にあり、そこにもやはり大きなイチョウの木が植えてありました。銀杏が落ちる時期になるとお寺の境内だけでなく、大きく張り出した枝からたくさんの銀杏が道路に落ちてきていて、銀杏を避けながら歩く事が困難になる程でした。私は銀杏特有のあの香りが苦手で、小学生になって友達の家遊びに行く時も、息を止めながら爪先立ちで歩いたり、わざわざそのお寺の周りを通らないように遠回りしたりしていた思い出があります。なぜイチョウの木なんか植えるのだろう、もっと甘い香りがして美味しい実がなる木を植えればいいのに、なんて事を思ったりもしていました。

このイチョウの木というのは、水分を多く含む植物で、燃えにくい難燃性の樹木だそうです。乾燥したように見える枝や葉を火にくべても、水蒸気を多く含む白い煙が出てきます。昔は、建物が火災になって焼け落ちてても、イチョウの木は表面が焦げるだけで残っているなんて事もよくあったようです。イチョウの木を植える事で火事を防ぐことができるわけではありませんが、防火のシンボルとして植えられる事もあったようです。また、イチョウの木は丈夫で育てやすく、上に高く大きく育つので、人が集まる場所のシンボルとしても植えられたようです。現在は、樹齢数百年の立派なイチョウの木が日本中で見られます。古来より人々に親しまれているイチョウの木は、きっとその時々いろいろな思いを込められて植えられたのでしょう。

現在、二谷小学校にイチョウの木はありませんが、隣の平川町公園には立派なイチョウの木が何本も植えられています。かつて二谷小学校の敷地は、現在の公園の場所にも広がっていたと地域の方にお聞きしました。もしかしたら、学校ができた頃には校庭にイチョウの木があったのかもしれない。そしてそこには、学校が火災に遭わないように、子どもたちがイチョウの木のように大きく丈夫に育つように、という願いが込められていたのかもしれない。

冒頭で触れた遠足では、なかよし班という集団で活動しましたが、それ以外にも学校では様々な形や規模の集団を構成しながら学習活動を進めています。成長過程にある小学生がつくる集団では、それぞれが多様な個性を主張し合うことで課題が生じる場面も多くあります。しかし、その経験は将来大人になった時に何よりも大切になる事でしょう。イチョウの木のように子どもたちの心身が健やかに育つよう、成長を温かく見守り、励ましていきたいと思えます。

### 【お知らせ】

現在、4年生の図工の指導と、5・6年の家庭科の指導は三木富士子教諭が行っていますので、お知らせします。

お休みをいただいていた石川翔大教諭は、11月中旬より5年1組担任として復帰しました。

5年1組の指導は引き続き複数体制で取り組んでいます。保護者の皆様にはご心配、ご迷惑をおかけしますが、どうぞご理解、ご協力をお願いします。